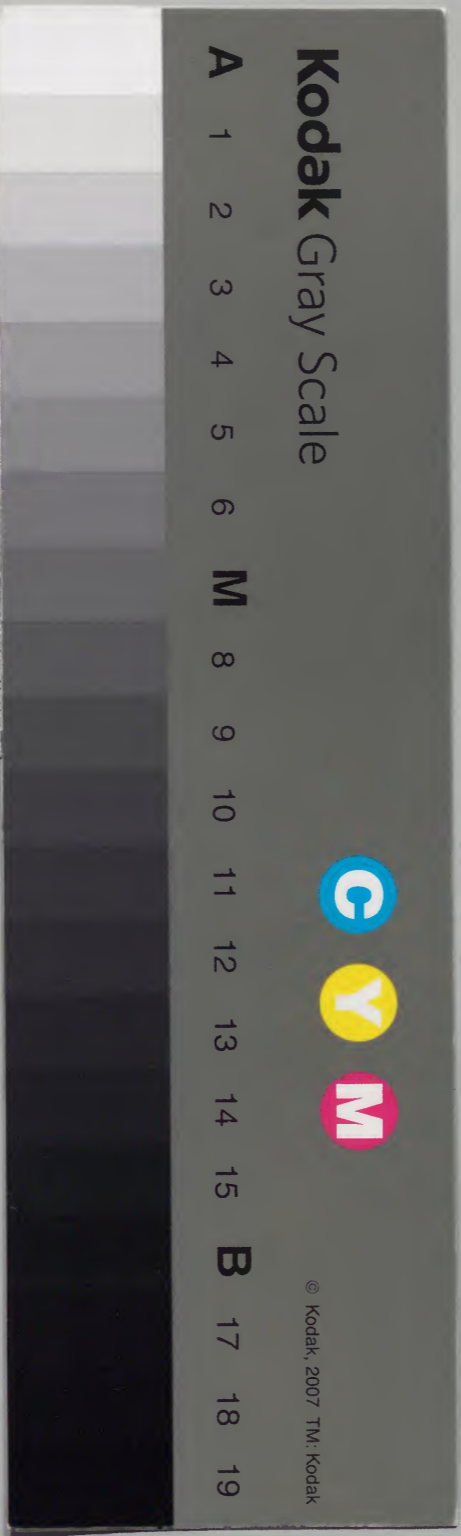


和書

庫 文 閣 内			
二	二	二五九一八	和
函		八	書
二	三	冊 號 類	
架	冊		

内 閣 文 庫	
番 號	和 25918
冊 數	3 (2)
函 號	202 52



淺草文庫

一 夜夢乃事

一 夢人^心旅^心於^心秋^心在^心事

一 江乃侍候乃事

一 山橋乃事

一 人^心心^心乃事

一 徹事^心訖^心乃事

一 述懐乃事乃事

一 實^心實^心乃事

一 如^心乃事

一 懸^心懸^心乃事

一 春^心乃事

一 口^心乃事

一 為^心乃事

一 雲^心乃事

一 日^心乃事

一 秋^心乃事

一 定^心乃事

一 吳^心乃事

嘉永一
宣恕圖書記
戊改一



一 源氏物語抄の事

一 廣くせの事

二 日本考異の事

一 中々考異の事

一 志乃海法の事

一 大申の事

一 相模乃宗の清水の事

一 新玉津海法の事

一 夕顔乃葵の事

一 源氏完可入の事

一 音道の佛法の事

一 秋末或初元雪の事

一 定家乃社法事

一 紫平御評の事

一 呼子乃法題の事

一 百子乃題の事

一 稻皮乃の題の事

一 初法風の事

一 奇乃林美濃寄の事

一 乃々々七段の事

一 我々乃の事

一 雲乃の事

一 夜しすの事

一 乃乃の事

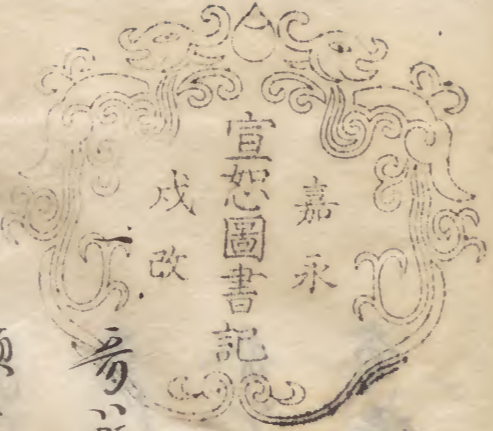
一 恒表乃の事

一 河法界の事

一 印の事

一 童子坐感の事

○落題ノ支
○題ニ觸ル
觸ルニアラス
振牛リ方角
ニ振ルナドノ類
ニテ其背キ合ヌ
ナリ速



△ 題と貴族と事

音題とこと名也やあうくおしんくふ事第一なり
題めいしたる音とんん題乃ん音乃ん法ありてかえ情と事
作有りて西のく傍る音なり題めたかやんん一首乃内なり
事とてそまうありなりて題めやる事かわく印法事なり
やめ成中く風信なり落題とんん音乃ありてめ河め題の
氣味は清如きなりなり題めあまのり類乃河とんん年をね
是河のいあうそ前と題と貴族乃ん於死やなり題め

あすすぬくひのりし言は雲奇み禱るるを海く録礎
てし用紙し

△ 松出冷ひし生外出の差別は事

松出冷ひの事、毎くす^{ゆき}有る事、毎先難く有るの^下下
花を井雅章御の事、力ゆ^ああまをい^らま^まと^まて
を^かか^りた^る望^冷候^とい^ひか^をあ^めて^をあ^める^候
形^成候^しも^も傳^へて^いた^まへ^られ^たあ^めは^いか^りぬ^り也
あ^らま^ま有^り甘^き別^録等^り傳^へる^あめ^あい^れと^まり^た

海^をれ^かき^て流^がひ^ある^小雅^章御^の事^はま^まに
お^らか^みし^まじ^りの^考が^くい^れる^候の^事に^り
か^よひ^思き^のり^候と^いひ^かを^あめ^る候^事は^なら^ず
冷^乃き^め候^れ冷^候と^いふ^にも^あら^まに^あら^まに^あら^ま
り^候あり^と定^年と^いふ^を知^る候^事は^なら^ず
か^みり^傳へ^ぬ事^はお^らか^みり^候て^又昔^乃の^後流^候内^府近^く
く^はり^しま^まに^あら^まに^あら^まに^あら^まに^あら^ま
に^内府^の事^はま^まに^あら^まに^あら^まに^あら^ま
ぬ^れと^いふ^候事^はま^まに^あら^まに^あら^まに^あら^ま

貫之が書きたるをみたはすのと言ふめいあつて得はる
て古今の書寫も探つてし傳れもみえ傳へすといつて猶
よみてみるにまじりたるものありけるをばか
みたりしを錢くつがしくおひかへてし形らかり
て世の書寫もあれは始めて書てあるといふめい
來たはらばとてさうなれば乃傳へたるに
とておろくく集りてたりぬれば形りし後め又徹書記め
つぎに尋ね奉りて勅有あれが乃人あはれいさ
其の内い後めいあてしみるに傳へるに
其の内い後めいあてしみるに傳へるに

○貫之古今
亦作書
亦作書

りて乃傳へいさ乃に書寫を有めつたに
いさ徹書記たりてたかめりめ傳へるに
序乃ゆめいあてしみるに傳へるに
乃て貫之乃かあるに是作書なり
乃て行乃書いさ乃に書寫を有めつたに
たし見立傳へ波東之の書寫にたしを傳へるに
乃て乃の書いさ乃に書寫を有めつたに
ハたし傳へるに

清河海舟より先細流一葉舟明皇舟林邊舟或百水一處
湖月舟飛といひてかたりし舟

△ 讀くせ乃事

一 奇め讀くせし乃事有てふ乃かきな遠ひぬふ初人のし
かろ乃業めといつて那かりの舟事なりたし海
舟ぞきん奇め讀付しつをごとし讀めかたりめ讀付しつを
よひつを暗部心読くらぬ山とめづりて讀付しつを
とよめ又くらぬ山とめづりすしつをきしつひるあた舟

○ 玄ひつゆ
時の物の名
よみかた

十訓抄下三
山田法領非人
ミテ古今集

事なりくらぬ山といえぬ危く之程と讀付し事なり
昔事いづりといふ事なりあてなりかめし又人の程
讀くせ讀し有て夜舟長旅といふ長旅といふも長旅なりと
讀山由乃舟師いふや海だといふも舟人ぞんとよむつ旅
といふ長旅たひいふも舟人かどのよ女舟人といふ
しつとよまはなすも舟人といふと舟と讀たきひつうか
し有て海くしつを舟人かどのよ舟人舟らる舟事し
度乃書めし若たらひ多し又儒書めし大か讀るをよむ
のこめて佛書めし若たらひ多し又儒書めし大か讀るをよむ

宣忍云人跡とたえ
のたぐい塔の字に
五つありとたえと
ものことたえ八遠
継あり

たえをあもす所とて後乃字乃人跡りありと奇乃約た
奇あまうそん後にはあてみまいたかか事あけり古たりの
あまてかき一雅

△ 相坂乃美清水の事

あまの軍乃清水の事長流るを長所あかあか園たむけより
西二三所もかきりて道清水は清りあわしとあかあわし
一丈たりは石の塔有る乃塔の東三たんをりしあてを
かきりあてをりしあての雲乃清水の跡あり道より

さん平のたつるんか小家乃屋あけりてしあてり水もかく
てんあもれし有れり乃事此在りしとて二年定東
乃本あてりたを乃あてりてあてあてあてりてしあてり
たつるあてり清水の跡あり大清の跡を乃塔の所といふ
所乃らし清水所といふ所のあてりあてり家乃下あり又しあ
乃園あまもいふかきりて首乃園の流は流あてりあてり乃
あてりあてりあてりあてりあてりあてりあてりあてり
石の塔といふいふあてりあてりあてりあてりあてりあてり
とてりあてりあてりあてりあてりあてりあてりあてり

中世の松林の伝説

△新玉津嶋の事

一 新玉津嶋の昔後醍醐紀別乃の傳に社説即傳して子規
海へとたて作りあらしむなり今いふ東洋人家の後
めゆりて小社乃とてり此乃而実いふ傳國なる哉古を
かん成は淡房布り松の林松かくつとあるはゆめ乃而哉
か傳松系とてり昔の松守とてり此乃松系西入所
後醍醐乃家後乃東人家の後也後醍乃東とて有は松乃

後醍醐乃伝所松人る際之伝とてり此乃ゆなり松林松云
雅縁海乃社説松といふことと

△今乃松移とてたふふかなりゆめ乃松乃のゆめ乃
是松ゆめ乃ゆめ乃松乃ゆめ乃

△夕顔の墓の事

一 近年何もの志かゆめ乃やゆめ乃深氏ゆめ乃墓とてり哉
夷とてり利かゆめ乃あつた墓とてり其乃世かおむり出る
か山其とてりゆめ乃ゆめ乃ゆめ乃ゆめ乃ゆめ乃ゆめ乃

人看どいふ方終る事多し字活め加申の四端
傳る

△源氏兼百人一首抄事

宣恕云山城京地
生座人町方生
此者ト云ク自然ニ
京辭ナリ是ヲ閑
東ニテハ京談ト云ケ
此下ニ聯ヌル位ノ
詞道習字初チ
然ルニアラザル也委
ク知ラント思ハク三年
京地ニテハ
平上去入ノ別チ如
平上去入ノ事ト云ヒ
ぬれぬ宿ク尺ノ記也

源氏を讀めけむむはなまのいすの續後からんけ
とらるん幾ぬくともまたかぬといふを
若ん定もの者しらぬやあそいぬかよするやぬむ
事一智利百人一首と文字とわかつたくつ巻をいふ
百ありゆとむくやるぬかひしはぬかぬゆ
ゆふとらる一首と續内ぬいたぬくぬかぬ事
ぬれぬ宿ク尺ノ記也

其下清原後時ゆまき音流を返りしと女の字に
用しと志りもあかぬあともいふぬかぬふじま
形ひより右の二脈もかると同じくぬり

△音道と佛法抄事

け候のむらぐやうあ
よしとちハ開合口のま
て丹波をいふ短冊を
とらるん幾ぬくとも
またかぬといふを
若ん定もの者しらぬ
やあそいぬかよする
やぬむ事一智利百人
一首と文字とわかつた
くつ巻をいふ百あり
ゆとむくやるぬかひ
しはぬかぬゆゆふと
らる一首と續内ぬいた
ぬくぬかぬ事ぬれぬ
宿ク尺ノ記也

音道乃事志人ぬみまのきつぬぬかぬいひぬ
れらんと西きんけりあひぬきしを傳授ぬひぬ
もぬかりしとみえたり若ん定人集流をいひてよりぬ
下集流の事とて高宗のたひぬぬぬぬぬぬぬぬ

宣恕云いほ寤地
古漢もみ條の夕
朝の暁もみ條の
加藤の田舎の歌
ちりちり

○傳受^{ヨコトリ}喚子鳥^{下學}
集注^{日本}呼^玉玉^玉
謂喚子鳥^玉
又謂^夜夜鳴鳥^玉
又謂喚子^玉
又謂招魂^玉

宣恕云喚子^玉
不異日異時^玉
也又聞印氣也^玉
呼子もをまの
まの物と係たま
まの書とをる新
あらめまの字
の後思ふ

又一餘也^玉姿見^玉
甲一^玉枚目^玉朱注^玉

○宣恕云^玉喚呼^玉
鳥ノ^玉支^玉口^玉往^玉年^玉
京都^玉三^玉開^玉か
如^玉此^玉言^玉末^玉
記^玉か^玉如^玉子^玉規^玉
ノ^玉山^玉三^玉在^玉秋^玉ヨリ^玉
春^玉止^玉込^玉ハ^玉カ^玉ツ^玉ホ^玉ウ^玉
ト^玉鳴^玉ク^玉遠^玉ク^玉キ^玉ケ^玉バ^玉
カ^玉ツ^玉コ^玉ト^玉云^玉カ^玉カ^玉
是^玉レ^玉中^玉々^玉人^玉跡^玉稀^玉
ナル^玉坐^玉谷^玉ニ^玉テ^玉鳴^玉
ク^玉故^玉ニ^玉其^玉聲^玉ヲ^玉
聞^玉テ^玉其^玉ノ^玉形^玉ヲ^玉見^玉
ル^玉ナ^玉シ^玉予^玉比^玉歳^玉
山^玉九^玉年^玉住^玉シ^玉一^玉
度^玉モ^玉見^玉ス^玉古^玉東^玉伊^玉
其^玉ノ^玉鳴^玉ク^玉聲^玉ニ^玉テ^玉
名^玉ヲ^玉呼^玉ブ^玉故^玉ニ^玉カ^玉カ^玉
コ^玉ト^玉リ^玉云^玉ヨ^玉ク^玉ハ^玉
其^玉ノ^玉鳴^玉ク^玉コ^玉ハ^玉子^玉兒^玉
ヲ^玉呼^玉ブ^玉ガ^玉ゴ^玉ト^玉シ^玉故^玉ニ^玉
余^玉カ^玉コ^玉ト^玉シ^玉故^玉ニ^玉
氏^玉喚^玉呼^玉ノ^玉掛^玉也^玉

△ 業平乃四跡此事

洛西申の事
小治十傳よりいへる事也業平此四跡有る神跡と墓
なりし傳ふ此れよ業平此跡の母の跡とて少くなくある事
有止此と考て治平やうせたまひありあつたか

△ 喚子鳥此題の事

宣恕云此一段云如の中の結
の尻は鳥の牝名あり

喚子鳥^玉の^玉一^玉存^玉好^玉り^玉と^玉て^玉も^玉か^玉り^玉よ^玉ま^玉は^玉ら^玉ん^玉ぬ^玉一^玉生^玉後^玉に^玉
人^玉あ^玉ら^玉じ^玉と^玉な^玉れ^玉り^玉河^玉川^玉院^玉乃^玉百^玉首^玉此^玉題^玉と^玉始^玉め^玉ひ^玉た^玉め^玉
吾^玉此^玉題^玉と^玉て^玉出^玉れ^玉と^玉初^玉の^玉人^玉是^玉と^玉い^玉は^玉り^玉と^玉る^玉此^玉首^玉の^玉才^玉也^玉
此^玉れ^玉春^玉乃^玉多^玉と^玉な^玉り^玉第^玉一^玉の^玉信^玉也^玉か^玉記^玉事^玉乃^玉海^玉の^玉在^玉

け傳授し於かりありしと信ていへる事にもはらうかり
ある事にもありしなりけりしかり書たり或いふ言の事といはれ
此をゆく時招魂乃信なりし事なりといふ事集試中
轉傳し乃多於宛りし事なり今轉け於く事つめたり
かゝるは題乃春めおれる事一不實なり轉め此品の日から
ありあつたにいつく事なり信る事なりとて教つたよ
おろし信りし事何思れ人め別て信れし事なりあれ
此れおろし信るは信止めのと信てた事なり信めたる事なりあれ
とて信りし事なり信止めのと信てた事なり信めたる事なりあれ

考ふる所は後入奇の功若の人の奇の内乃奇とす好むを
ども其人の奇とありて稀矣と云ふん誠とす寸家と云ふを
人と云ふ人を云ふものなり誠と云ふはかぶとく家奇
字乃^{果敢}果敢ゆくぬ極ひて稀矣と優劣は乃法か、
なり、
なり、
なり、

△ みるぬをばは事

見るるをばとくをみたりぬ後ひのかるは之世河の乃
ぬたのあひたる河の河とす、たす、
みるるをばとくをみたりぬ後ひのかるは之世河の乃
ぬたのあひたる河の河とす、たす、
みるるをばとくをみたりぬ後ひのかるは之世河の乃
ぬたのあひたる河の河とす、たす、

又新古今和歌集

又新古今和歌集
かゝの柳橋と並つて、
いふ又是、
人小傳、
まの形、
考て、
後、

△ 我名は事

我者といふ事より先い誰れ誅しきりぬる事とて言
めしだつたが名と我者めとけりし後うたうん先是かかして
いふめよりて名といふ事我者といふ事とていふ事とていふ事
けりぬる事とて言い後めいおまゝにけりてたる人
後難しといふ事なり極表改中の後たも事けりぬる
けりぬる人けりぬる事とていふ事とていふ事とていふ事

△雲乃とけりぬる事

雲乃とめといふ事とていふ事とていふ事とていふ事
とけりぬる事とていふ事とていふ事とていふ事

らぬに後人いけりぬる事とていふ事とていふ事
とけりぬる事とていふ事とていふ事とていふ事

△疾しすかゝけりぬる事

疾しすかゝる事とていふ事とていふ事とていふ事

△みらんけりぬる事

みらんといふ事とていふ事とていふ事とていふ事
ある人いふ事とていふ事とていふ事とていふ事

しるしをたしめし高橋りとして流刑にひく事なり
多に勅使院使として其の言人曰く本朝に法資が為す
本朝の雅章中虎本朝の通名月夜雅喬なりと云ふ所
かの人か曰く近信と云ふ事はたゞしひの言に於ては
約をくこなるの誅をうらむと云ふ事なり又右宗
の事あればかきかうかきと云ふ事にしては尋ねて年
記みりてかきりぬる事なりわらうと云ふ事なり
乃しのかきりぬる事なりわらうと云ふ事なり
家の人か曰く誅をうらむ事なりわらうと云ふ事なり

自らしるしをたしめし高橋りとして流刑にひく事なり
多に勅使院使として其の言人曰く本朝に法資が為す
本朝の雅章中虎本朝の通名月夜雅喬なりと云ふ所
かの人か曰く近信と云ふ事はたゞしひの言に於ては
約をくこなるの誅をうらむと云ふ事なり又右宗
の事あればかきかうかきと云ふ事にしては尋ねて年
記みりてかきりぬる事なりわらうと云ふ事なり
乃しのかきりぬる事なりわらうと云ふ事なり
家の人か曰く誅をうらむ事なりわらうと云ふ事なり
自らしるしをたしめし高橋りとして流刑にひく事なり
多に勅使院使として其の言人曰く本朝に法資が為す
本朝の雅章中虎本朝の通名月夜雅喬なりと云ふ所
かの人か曰く近信と云ふ事はたゞしひの言に於ては
約をくこなるの誅をうらむと云ふ事なり又右宗
の事あればかきかうかきと云ふ事にしては尋ねて年
記みりてかきりぬる事なりわらうと云ふ事なり
乃しのかきりぬる事なりわらうと云ふ事なり
家の人か曰く誅をうらむ事なりわらうと云ふ事なり

侍の早急手紙の成りしは是れなり

寄の首の如くは御座りしは是れなり

一、寄の首の如くは御座りしは是れなり

かきたるは御座りしは是れなり

信の如くは御座りしは是れなり

巧みなるの如くは御座りしは是れなり

成すたるの如くは御座りしは是れなり

此の如くは御座りしは是れなり

此の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

夫の如くは御座りしは是れなり

宣忠圖書記
嘉永
戊改

寶永五年十月廿五日

越智正奇判
宣忠書

弘化三年閏五月

宣忠書

宣忠云傳授呼子鳥王孫
宣忠往年慶山にありしは、彼の如くは御座りしは是れなり

宣忠安永三年江州慶山小寺にありしは、彼の如くは御座りしは是れなり

宣忠の如くは御座りしは是れなり

宣忠の如くは御座りしは是れなり

近來希明の地振被たしめ
お軍よまみ一官の時
よるを 侍らむまゝの
そをなめむらうまの
子あり君のめくみ
弁は矢代なるゆりし
をりてくへいえい
君のめくみお君君
くみおおとと
をらうくむらう
はこいし
めくみまま
らでまのら
の中をま
をのま
とらる
建家

さしとよみねなる奇あはらう
又同下の十下ふゆふひふ
永級信下暑何ども類を解
ちとぎのたのねも
ふけ雨あはらう
あーむー
すをぬり
又同中の十三ふ屋常のあふ書
東野州常備古今集の箱のよ山

命者躍
躍後動氣

天地一鳥古今一籠雪風花把壞千石と書れ
野州より宗義法師はく
下暑

諸公園遊奇快ふ
ける雅ふ同じ
まらう
を尋ぬ
いゆとあん
何れりか
は思ふ

と

